

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170400881), 法人名 (有限会社 ユースフル), 事業所名 (グループホーム 星の家), 所在地 (北海道札幌市手稲区稲穂1条7丁目8番18号), 自己評価作成日 (平成30年6月3日), 評価結果市町村受理日 (平成30年7月9日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『グループホーム星の家』は、入居者様のご家族や、地域の方々々に温かく見守られながら月日を重ね、間もなく丸15年を迎えようとしています。1階のユニット名が『彦星』、2階が『織姫』です。山や海が近く、空気が美味しいせいなのか、食欲が衰えないせいなのか、毎日体操もされ、よく笑われるせいなのか、どの入居者様も、所どころある身体の故障箇所を庇いながら、お元気に生活されています。認知症や介護度が徐々に進行しても、出来る事は沢山あり、職員が教わる事も少なくありません。しばしば受け入れている初任者研修実習生の殆どの方が、「何でもできる普通のおじいちゃんやおばあちゃん、ほんとに大家族みたいですね。」と言われるように、まさしく『大家族』という表現がぴったりの所だと思います。満99歳や98歳の入居者様も、食事の準備や後片付け、掃除、洗濯干し等々、ホームではまだまだ現役です。気心が知れ、一緒に過ごす時間が長くなると、身内のような錯覚に陥りがちですが、今後も、職員は心をつ一つにして、理念に掲げられている『人格の尊重』を心に刻み、日々感謝の気持ちを忘れずに、愛され信頼されるホーム作りに勤しみたいと思います。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou_detail 2017 02 2_kihon=true&JigyosyoCd=0170400881-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年6月22日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table box for external evaluation comments.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を作り、EVホールや事務所、休憩室等に掲示し、スタッフ間で共有。人格の尊重、楽しみのある生活空間作りに努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入しており、ごみ拾いや、花壇整備に参加したり、盆踊りに参加したりしている。敬老会では、町内会合唱団の方や、近くの保育園の園児さん方にも参加していただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、行事やホームでの活動内容、支援の方法等について報告している。また、電話で認知症の方のご家族からの相談に応じることもある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	リビングにて2ヶ月に1回開催。入居者様、ご家族、町内会役員の方、地域包括支援センター職員にも参加して頂き、活動状況や予定の報告、ご意見等を伺いサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の事業指導担当者や区の保護課や福祉課の職員の方々と連絡を取り、事業報告や必要な各種手続きを行っている。又、運営やサービス等について相談、助言を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より「身体拘束廃止委員会」を設置。運営推進会議を活用し2ヶ月に1回開催。状況報告や検討を行っている。職員間では最低月に1回は話し合いの場を設けている。玄関の施錠は防犯上夜勤者が各フロアに1人となる夜間のみとし、日中は解錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや申し送りの際等に、学ぶ機会や話し合いの場を設けている。日々のケアの中で、不適切なケアが見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会による支援や、成年後見制度による支援を利用されている入居者様があり、担当者の来訪時には状況報告をしている。制度の学習については研修への参加を通して学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書や重要事項説明書、その他同意書などについて、入居者様やご家族に説明しご不明点等がないかを確認したうえで、納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時等にご要望を伺うようにしている他、年に1回アンケート(無記名)を送付し、ご意見やご要望を伺い日々のケアに反映させている。又、各階にご意見箱を設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや、日々の申し送り、職員の個別面談時に、意見や、要望をきく機会を設け、反映するように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験年数やスキルをベースとし、給与水準や休日等、個々の職員が働きやすいよう環境整備に努めている。食事の補助も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員の経験年数や力量、参加度に応じて参加の機会を設けており、研修後はミーティングで報告し他の職員も学ぶ機会を得ている。内部研修は毎月テーマを決めて実施し、全職員のスキルや意識やの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区の管理者会議や研修会、地域のイベント等で、同業者と交流する機会を作り、相互訪問、情報交換ができる関係性をつくることで、サービスの質の向上に生かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者やケアマネから得た、入居前からの情報をはじめ、本人やご家族が必要としている支援を見極め、不安を受けとめ、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の初回面談時からの情報を大切に、ご家族が不安に思っている事や要望等を一つずつ受けとめながら、安心していただけるような関係性が一日も早く築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族が必要とし求めている支援を見極めたうえで、インフォーマルサービス等の利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を一個人として尊重し、介護する側としてではなく、共に生活をする者同士として理解し合えるような関係性を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告を行っているが、本人のご希望によっては、電話で対応して頂いたり、面会や外出等の対応をお願いすることもある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にお付き合いされていたご近所の方や、知人の方が面会に来られ一緒に過ごされたり、ご親族に電話をされたりし、馴染みの関係性が途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が不満なく暮らせるよう居間の配席を工夫したり、状況に応じて入居者間の会話に介入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族が、ホームに立ち寄られ思い出話をされることがある。又、ホームで使用できるタオルや布を届けてくださることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や何気ない表情から、思いや希望を受け止め、職員間で情報を共有することで、個別ケアに反映できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況について、ご本人やご家族、病院やサービス利用先の担当者から情報を収集、把握することで、ホームでの生活に早く馴染めるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常会話や行動から、出来ること出来ないこと、困っている事や訴え等を把握し、日々の記録に残し、職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族とは、常日頃から話し合いをしている。ケース記録や申し送りから課題を導き出し、分析し、カンファレンスで個々に意見を出し合い、現状に適した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や新たに気づいた変化等については、具体的に記録に残し、職員間で共有。介護計画の実践や、見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、病院への送迎や同行をしたり、ご家族に代わって入院時の書類記入を行うこともある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物やドライブ、散歩、外食等、外に出る機会を作り、地域資源を活用しながら豊かな生活が継続できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の往診について、説明し同意をいただいております。月に2回の往診により健康を維持できるように支援している。ご家族が同席されることもある。急変時の支援体制も整っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回、看護師が入居者様の健康管理を行っており、職員の報告・相談に対し、適切な指示・助言を受けることができます。又、往診時以外にもかかりつけ医や専門医との連携を図ることができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、診療情報提供書や看護・介護添書を提出したり、身体状況や生活状況等について口頭で詳しく説明している。入院中は定期的に面会し、退院に向けての情報交換にも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約前の説明時に、ご本人・ご家族に、重度化した場合の対応について説明をし、早い時期から具体的に方針を共有していけるよう、同意していただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や急変時のマニュアルを作成し、管理者、看護師、かかりつけ医への連絡、救急搬送の手配ができるように備えているが、全職員に向けての定期的な訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定火災避難訓練は年4回実施しており、消防署の方、町内会役員の方にも参加して頂いている。土砂災害・水害の危険区域には該当していないが町内の防災訓練にはH29年に参加している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の『ひと』として、人格を尊重し、敬意を払って接することを心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のペースを大切に、自己決定できるような環境作りを積極的に行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、一人ひとりの生活のペースを乱さないように努めているが、職員の都合を優先してしまうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用されたり、お好みの洋服を選ばれたり、入浴後ご自身で髪の乾燥・セットをされる等、その人らしいおしゃれができるよう支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、コミュニケーションをとりながら職員と入居者が一緒に行うことが日課となっている。食事は苦手な物は無理に勧めず、楽しみながらおいしく過ごせる時間となるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、その都度記録し、必要摂取量の確保に努めている。食事量の少ない方には、かかりつけ医の指示によりエンシュア等の栄養剤も提供している。刻み食での提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食後の口腔ケアは、入居者様の状態に合わせて、声掛け、見守り、介助にて、歯間ブラシや舌ブラシ等も使用して行っている。訪問歯科医の定期健診によるアドバイスも受け保清に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、個々の排泄パターンを把握し、さり気ない声掛けや誘導により失敗を減らせるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	集団体操や個々の運動のほか、食材の工夫や水分量の確保に努めている。又、かかりつけ医に相談し、下剤の調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日と入浴の時間帯は職員の都合で決めているが、入浴中はコミュニケーションに配慮し楽しんでいただけるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や、ご本人の希望に沿って、午前、午後に関わらず安心して休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書は個人ファイルに保管し、職員が確認し易いようにしている。変更時は連絡ノートに記入し職員間で共有している。錠剤が飲みづらい場合は散剤に変更したり服薬ゼリーで対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ること・出来ないことを把握したうえで役割を提供し、張り合いのある生活が送れるように努めている。散歩や、買い物、レク等で、気分転換も図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事を予定し、季節に合わせた外出のほか、天気の良い日には散歩や外気浴を行っている。ご家族の協力により、外食やドライブの他、入居前のご自宅やご親族の家に外出・外泊されることもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い(預り金)はホームで預っているが、希望があれば自由に使えるようになっている。買い物の際は、入居者がレジでお支払いをされることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればいつでも電話の利用ができるようになっている。年賀状をはじめ、手紙の取次ぎも行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔を保つようにしています。季節感を取り入れた壁や天井の飾りは、入居者様と職員と一緒に作成しています。習字や塗り絵も掲示しています。テレビやCDの音量、温度や湿度、照明の調整にも心掛け、心地よく過ごしていただけるように配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決まっているが、その他の時間は自由に座って頂いている。気の合う入居者様同士がソファでくつろがれ、楽しそうにお話されることもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、居室には慣れ親しんだ家具や置物、家族の写真等を飾り、安心感を得ることで居心地よく過ごしていただけるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には、表札と顔写真を掲示し、ご自身の部屋であることが認識しやすいようにしている。床はバリアフリーで、廊下や階段には手すりを設置し、安全な環境作りに努めている。		